

明理川山路家系図

初代・氏祖

山路孫兵衛 | 男

男 | 男

孫兵衛

市郎兵衛

重五郎

寺五郎

森蔵

民五郎

宇吉

孫平

弘美

弘樹

宝暦2年
1752年没

宝暦6年
1756年没

寛政3年
1791年没

天保12年
1841年没

明治17年
1884年没

大正11年
1922年没

昭和24年
1949年没

昭和39年
1964年没

良和

亮太

法名・釋淨和

次男

源太郎

宇右衛門

彌六

元禄4年生
(1691年)
|
宝暦13年
7月15日没
(1763年)

山路家過去帳・抜粋

干時元和二年之頃備後國三原城下住人川口氏末代孫兵衛申者在故當豫州桑村郡壬生川浦來暫居其後同郡明理川居住改山路姓也其后先祖孫兵衛檀寺本尊阿弥陀如来立枕頭即靈告誠成奇特思隨喜淚涸京都登於御本山迎御立佛奉安所致也

本派本願寺末覚法寺門徒

山路弘美新調

昭和五十三年三月

三原城下での戦に負けて

豫州へ流れて来た

元和二年(一六一六年)の頃、備後の国(広島県東部)三原城下の住人で、川口氏の末裔に孫兵衛という者がいた。ここ豫州桑村郡壬生川村浦に来て暫く居たが、後に明理川へ居住し、姓を山路と改めた。そして、氏祖であるこの孫兵衛は、檀那寺(覚法寺)のご本尊となる阿弥陀如来を建立するようになつたこと、これに感ずいた。京都に登つて、本山(本願寺)の立佛(阿弥陀如来立像)を仰いで、ここに奉安した。

山路家墓所の西隣に延寶二年(1674年)一色新兵衛重好開山の円通庵が在りました。山路宇右衛門は両親の菩提を供養する為に円通庵の観音堂に如意輪観音菩薩坐像を奉納し、明理川村民による宗派を超えての観音信仰が続いていました。

昭和8年(1933年)、「観音講」発願寄進により観音堂は円福寺境内へ本堂として再建移築されました。現在も円福寺のご本尊・祖霊と共に円通庵の観音坐像・祖霊が本堂内の右側に安置されております。



山路弘美家 (本家)

信雄 | 清敷 | 紀之 | 大作

松美 | 昭和20年戦死 (沖繩) (1945年)

秀美 | 昭和20年戦死 (ビルマ)

昭和39年
1964年没 | 良和 | 亮太

平成二十八年四月一日 山路弘美編纂